

科目名	心理学史特講	担当者	アラカワ 荒川 アナム 歩	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>それぞれの学問領域の研究手法や基準、考え方は、合理的理由によつてのみ成立するものではなく、その学問の歴史に強く依存している。そのため、それぞれの学問に新たなブレークスルーを引き起こすには、その歴史を理解する必要がある。心理学もその例外ではない。この授業では、心理学を例に、学問が現在のように形成された過程を歴史的に理解することで、既存の心理学を相対的に見るができるようになることを目的とする。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A-2:3, A-3:4, A-4:4, A-6:3, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 心理学が現在のように形成された過程を歴史的に理解し (知識)、現在の心理学を相対的に見る視点を獲得し (技能)、批判的に評価する習慣を身に着けること (態度)。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある研究知見をうのみにせず、その知見の成立過程に目を向けることができる</li> <li>・ある研究方法による知見を絶対的なもののように考えず、その研究方法について調べる手立てを身に着ける</li> <li>・代表的な心理学の立場については、その立場の成立過程について知っており、必要な際に利用することができる。</li> </ul> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前に教材を読んで流れを理解したうえで、各課題に臨むこと。 各課題について本を1～2冊読む程度の準備学修は必要である。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 担当者の指導の下、教科書、参考書を手掛かりに自主的に調べて学習することが求められる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教科書、参考書、個人研究</p> <p>【学修時間】 レポート課題一つにつき、完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の学習：20時間</li> <li>・レポートの執筆：10時間</li> <li>・レポートの推敲と担当教員の指導に基づく修正：15時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期:教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期:教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を口処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も2019年1月上旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート内容	75%	レポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。
	レポート構成	25%	レポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、レポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。
履修者への要望	<p>1)基本教材2の課題2については、レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2)基本教材2の課題2のテーマの選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークなテーマを歓迎します。</p> <p>3)レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4)基本教材2の課題2で選んだテーマに関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5)引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注1:不明の点はメール等で問い合わせて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ・鈴木朋子・荒川歩 教材名： 『心理学史(心理学のポイント・シリーズ)』(学文社、2012年) ISBN:978-4-76-201880-0 1,700円+税
	ポイントにわけて、心理学史を概説した比較的新しいテキストです。
参考図書	佐藤達哉・溝口元(編)『通史日本の心理学』(北大路書房、1997年) ISBN:4762820954 4,500円+税
履修上のポイント	臨床心理学を題材にその現在の有り様を歴史的に相対化する経験をしたうえで、心理学が社会の中でどのように変化してきたかを立体的に見ることができるようになることを目指します。
レポート課題 1	日本の臨床心理学が現在のよう形になるにいたった理由を理論の発展ではなく、制度の変化や社会的な出来事の影響の観点から説明してください。 <b>留意点：</b> 千甲眼事件や戦争の影響などに特に注意して下さい。
レポート課題 2	現場からの社会的必要性や一般市民の関心に対して、心理学はどのように応じ、どのように発展したかについて説明してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ 教材名： 『方法としての心理学史』(新曜社、2011年) ISBN: 978-4788512290 2,400円+税
	心理学がどのように成立してきたのかその背景に切り込んだ本です。基本教材1より焦点を絞って深く洞察しています。
参考図書	デイヴィッド・ザルツブルグ著『統計学を拓いた異才たち』(日経ビジネス人文庫、2010年) ISBN:978-4532195397 1,143円+税 高橋 滯子著『心の科学史 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生』(講談社学術文庫、2016年) ISBN: 978-4-06-292383-5 1,280円+税
履修上のポイント	そもそも心理学とはどのような理由で生まれたのかについて考察を深め、心理学の位置づけを相対化したうえで、自身が用いる研究技法においても、それがどのような歴史に基づいて構築されているのかについて相対化できるようになることを目指します。
レポート課題 1	1879年のヴェントの心理学実験室成立が心理学の成立と呼ばれるのはなぜか？その前の状況、そしてその後発展した方向性も考慮して、その理由をまとめてください。
レポート課題 2	自分が使う研究技法(統計・調査方法)のうちの1つを取り上げ、変化とその成立理由(特に社会的理由)に着目してその研究技法の歴史をまとめてください。 <b>留意点：</b> 新しい技法をテーマに選ぶ場合はその技法の前提となった技法も含めて書いてください。あまり難しいテーマを選びすぎないようにご注意ください。